

政務活動報告書

活動事項	建築物及びSDGsによる地域づくりセミナー受講（2講座）
活動年月日	令和2年2月6日(木)
場所	東京都千代田区永田町 2-17-17 アイオス永田町
活動の相手方	講師: 東京大学教授 建築家 隈研吾氏 早稲田大学環境総合研究センター研究員 准教授 永井祐二氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物がいかに地域づくりに波及効果を与えるのか？世界的建築家である隈氏の所見とSDGsに対する行政の向き合い方について永井准教授の見解を聞き、本県施策への提言や要望に生かすため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前は隈教授によるセミナー「地域を育てる建築物」。 ご自身が設計や監修に関わられた新潟県長岡市役所をはじめとした公共建築物や福岡太宰府のスタバ、海外で手がけられた建築物により地域や人の流れがどのように変貌したのか？事例を元に発表された。</li> <li>・午後は永井准教授によるセミナー「SDGsで地域が変わる自治体編」。国のSDGs未来都市や自治体モデル事業を採択した事例を中心に個別の取り組みを整理して発表された。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隈氏が設計監修した建築物は、新東京国立競技場を見ても分かるように木材がふんだんに活用されている。隈氏のコンセプトは、「極力、材料は現地で調達できるもの」。その方が、輸送コストや環境負荷を軽減できる上、木材であれば「地元のを動かす」ことにもつながる。大型建造物でも「CLT等の技術革新で木材活用が格段に広がった」と隈氏。また木材特有のメリットとして人への温もりを挙げ、スタバ来場者が格段に増加した例を挙げて、効果を実証された。コスト面は木材利用でUPするが、木材を見直し、人の流れを変える効果を勘案すれば、VFMは問題ないとの見解は、本県の「木づかいの国」を後押しするものであり、今後の県政への提言にぜひ繋げていきたいと思った。</li> <li>・SDGsに関しては、永井准教授がモデル自治体の取り組みを整理して紹介して頂いたが、従来からの施策をSDGsの観点から置き換えて如何に国もモデルを獲得するのか？という手法が中心だったため、正直言って「思惑外れ」の内容だった。世界共通の目標を自治体と住民が共有し、「行動や選択が世界を変える」意味を持つことは再認識できた。</li> </ul>
関連領収書番号	1202 0105 0203

政務活動報告書

活動事項	最先端農業に関する視察調査(セミナーほか)
活動年月日	令和元年5月22日(水)～令和元年5月23日(木)
場所	大阪府大阪市住之江区南港北1丁目5-102 インテックス大阪
活動の相手方	<p>① (国研)西日本農研センター 鳥獣対策グループ長 江口 祐輔氏</p> <p>② ベジタリア(株) 代表取締役社長 小池 聡 氏</p> <p>③ アグリコネクト(株) 代表取締役CEO 熊本 伊織氏</p> <p>④ (株)坂ノ途中 代表取締役 小野 邦彦氏</p> <p>⑤ ネイチャーダイン(株) 代表取締役社長 中島 啓一氏</p> <p>⑥ (有)たけもと農場 代表取締役 竹本 彰吾氏</p>
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <p>・インテックス大阪で開催の「農業 Week」に出展している農業関連メーカーの最先端技術や同会場でのセミナーを通して、本県農業への導入を探る。</p> <p>【内容】</p> <p>・250社を超す「展示ブース」では、ICTを活用したスマート農業や植物工場など、最先端の農業技術が紹介され、担当者に説明を求め、メリットや導入のコスト面を含めてレクを受けた。</p> <p>・セミナーでは、3日間で21講座の内、時間の重複等もあり、本県農業との関わりが深いと考えられるものを優先し、6講座を選択して受講した。</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>・植物工場については、レタスを例に挙げると1日の生産量3,000個が収支の分岐点。つまり生半可な初期投資では持続可能性が極めて低い。加えて大都市のビルでも植物工場は実現可能で、本県のように大消費地が距離的に遠いエリアでは輸送コスト軽減を図らなければ、同じ土俵では戦えないことを実感した。ただ、競合が薄く収益性が高い産物を選べば、天候や病害虫、省力化の面で、大いに研究の余地はあると考える。</p> <p>・後継者不足という難題に立ち向かうには、本県でも「スマート化」が必須。しかし、これまた初期投資がかかる。加えて圃場が狭く、中山間地を抱える本県に於いて、どのように「県版」スマート化を図るのか？ 本県の中山間地での実証実験が「やって終わり！」とならないよう、今回の視察で得た情報を元に、積極的に一般質問等で取り上げたい。</p> <p>・セミナーで最も印象に残ったキーワードは「有機栽培」。海外含めた富裕層をターゲットに「安全」を売り込めば、小ロットで高収入を得る道標になる。もっとニーズを掘り起こし生産に結びつける県の動きを求めたい。</p>
関連領収書番号	0501 0502 0503

政務活動報告書

活動事項	5G・4K8Kに関する視察調査・セミナー
活動年月日	令和元年7月17日(水)～令和元年7月18日(木)
場所	東京都江東区青海1丁目2番33号 青海展示棟
活動の相手方	① (株)NTTぷらら 代表取締役社長 永田 勝美氏 ② セコム(株) デジタル戦略企画室長 桑原 靖文氏 ③ ソフトバンク(株) モバイルネットワーク本部長 野田 真 氏 ④ 総務省 情報流通行政局長 吉田 真人氏 ⑤ 日本放送協会 技術局長 児玉 圭司氏 ⑥ (株)NTTドコモ 5Gイノベーション推進室長 中村 武宏氏 ⑦ シャープ(株) 事業戦略推進室マネージャー 山内 雄敦氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5Gやローカル5Gの情報通信の進展と4K8Kによる映像伝送技術について最先端の状況を把握し、本県での導入や活用の可能性を探るため、3回目を迎えた「通信・放送Week」を視察調査した。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「展示ブース」には380社超が出展。「映像伝送」「光通信技術」「4K8K」「5G IOT」の4エリアに分かれて、最先端機器や技術を担当者が説明。</li> <li>・「セミナー」では、3日間で30講座の内、開催時間の重複もあり、本県が今後活用していく「5G」「4K8K」「映像伝送」を中心に6講座を受講した。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5Gの最大の特徴である「超高速」「多数同時接続」「低遅延」について、展示ブースでの解説やセミナーを通じて、認識を深めることが出来た。</li> <li>・4K8Kの高解像度の映像技術等との組み合わせにより、セミナーで取り上げられた「東京ガールズコレクション」の同時配信技術は、本県でのイベントを、同様に世界発信できる可能性を感じた。また自動運転や遠隔治療、防犯活用など、我々の生活をも一変させ、いわゆる「田舎」のマイナス面をゼロに、プラスに転換させる技術革新である事は相違ない。</li> <li>・一方、人口少で需要少の本県では5G普及が遅れるため、ローカル5Gの基盤整備を行政主導で加速しなければ、益々都会と地方との格差が広がり兼ねないとの危機意識を持った。5Gで何が出来て、何を実行するのか？との議論と並行して、基盤整備が進むよう県当局に要望したい。</li> </ul>
関連領収書番号	0701 0702

政務活動報告書

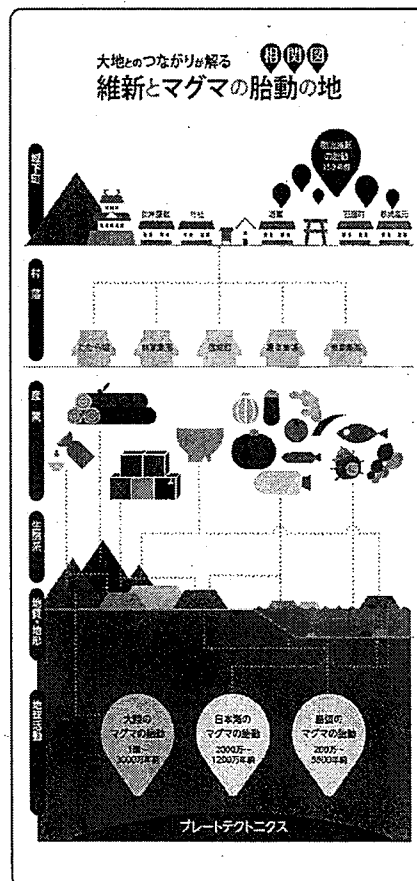
活動事項	鳥取県PR・モータースポーツ視察調査
活動年月日	令和元年7月28日(日)
場所	三重県鈴鹿市稲生町 7992 鈴鹿サーキット
活動の相手方	久野光博氏 渡部一夫氏(2名ライダー) [REDACTED]氏(マネージャー) ほか
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際2輪レースとして知名度抜群の「鈴鹿8耐」に、鳥取県のライダー2名とチームマネージャーが挑戦、本戦出場を成し遂げた。「次年度は連続で出場権を勝ち取り、本県PRにも貢献したい」との関係者の思いを受け、他チームが行っている地元PRや効果を確認するため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の8耐は予選から本戦までの4日間で10万9000人が来場。鳥取県在住ライダー2人が所属するチームは、和歌山県のショップからマシンの提供を受けたプライベートチーム。独自で集めたギリギリの資金で予選64位(最下位)で突破。本戦ではリタイヤが続出する中、無事完走を果たし、23チームを抜く41位という好成績でフィニッシュした。</li> <li>・予定していたピット内の視察は、フリーパスの枚数制限の関係で、当日残念ながらスタンドからの一般観戦となったが、反面、場内アナウンスで鳥取県の2人のライダーが紹介されるシーンや信州活性化プロジェクトとして「チーム長野」を支援する地元自治体が、観光パンフレットや県内のツーリングルートを紹介するチラシを来場者に配布する場面に遭遇するなど、有意義な視察となった。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県とバイクとの関係は、八頭町隼地区に毎年「ハヤブサ」ライダーが多数集結することで全国的な知名度もある。今回の視察により、次年度、長野県のように行政側の支援を受け、「チーム鳥取」として出場が叶えば来場のバイク愛好家を中心に、鳥取県のPRを行える手応えを感じた。</li> <li>・レース後、9月7日に鳥取市長、9月9日には平井知事に対し、結果報告にライダーの久野氏と同行。知事からは、「県のPR面に関しては最大限の協力をしたい。ぜひ来年も本戦出場を！」と激励をいただいた。</li> <li>・モータースポーツと縁遠い本県だからこそ、こうした新たな動きを地域活性化と連動させていくべく県の当局と戦略的に話を進めたい。</li> </ul>
関連領収書番号	0713 0716

政務活動報告書

活動事項	ESD(持続可能な開発のための教育)に関する視察調査
活動年月日	令和元年9月28日(土)
場所	岡山市北区奉還町2-2-1 岡山国際交流センター
活動の相手方	岡山ESD推進協議会 会長 阿部 宏史氏 ほか
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年にユネスコESD世界大会を開催した岡山市の事例を視察調査し、本県でのESD推進や山陰海岸ジオパークと県民との関わりを深める組織づくりについて学ぶため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ESDの推進」をテーマに掲げた「中国ブロックユネスコ研究大会 in 岡山」。第1部では、ESD推進に貢献した中国五県の団体が表彰された。第2部では、岡山県内のユース(大学生)世代によるESDの事例発表。第3部では、SDGs達成に向けたESDの位置づけをパネラーが提言後、グループワークで出席者全員が意見交換を行った。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESDの世界大会を開催した岡山市だけあって、ESD普及をプログラムに掲げる「ユネスコ本部」との結びつきも強く、また岡山ユネスコ協会を軸に岡山経済同友会や岡山JCなどの民間団体と大学機関、行政がスクラムを組んでの強固な体制と地区公民館をも巻き込んだ広がりには驚かされた。</li> <li>・本県の現状は、「SDGs」「ESD」と耳にしても「聞いたことはあるけれど何じゃ、そりゃー？」というのが一般県民の感覚であるように思う。公民館活動の中に、SDGsやESDを分かりやすく浸透させている岡山のやり方は、「普段の活動が世界と繋がっている」との自覚を促し、さらなる活動の活性化に繋がっていて、本県でも大いに参考にすべきと感じた。</li> <li>・ユネスコ関連で言えば、本県にはユネスコの正式プログラムになった「世界ジオパークネットワーク」に加盟する山陰海岸がある。行政には懸命に旗振りをして頂き、学校でのESDにも繋がっているが、一般県民をもっと良い意味で巻き込み関心を高めるためにも、民間団体や公民館での生涯教育との連動を考える必要がある。</li> <li>・今後、一般質問等を通じて、県当局や県教委に働きかけていきたい。</li> </ul>
関連領収書番号	0904 0905 0906

政務活動報告書

活動事項	ジオパーク「ビジターセンター」に関する視察調査
活動年月日	令和元年10月18日(金)
場所	山口県萩市江向510番地 「萩ジオパーク ビジターセンター」
活動の相手方	萩ジオパーク推進協議会 事務局長 阿武 宏 氏 専門員 白井 孝明氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界ジオパーク審査員である鳥取環境大学の柚洞一央准教授より「萩ジオパークの取り組みがユニーク」との話を聞き、実家帰省(浜田市)の折りに足を伸ばして視察。本県の山陰海岸ジオパークの取り組みに生かすための情報を収集した。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木造の旧小学校校舎を活用したビジターセンターで、同ジオパークの専門員である白井孝明氏より、萩ジオパークの取り組みについておよそ1時間30分レクチャーを受けた。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>萩ジオパークは、2018年に日本ジオパークに登録されたばかりだが「地球(大地)と営み」とのつながりが一目で分かる相関図をイラスト作成。小学生のふるさと教育の柱に据え、なぜ維新が?なぜ萩焼が?など歴史や地場産業と関連づけて子どもたちの心をくすぐる発信をしている。</li> <li>また「地球」をキーワードに置いて、「地球目線の歩き方」「地球とあそぼ」など俯瞰的なタイトル発信が、インバウンド誘客増に寄与しているという。</li> <li>市民対象講座も、興味関心を抱きやすいタイトル発信に心がけていて、本県でも大いに参考にすべきだと感じた。会派要望や一般質問等で働きかけていきたい。</li> </ul>
関連領収書番号	1012



政務活動報告書

活動事項	山陰海岸ジオパーク推進 関係省庁・地元選出国會議員への要望活動
活動年月日	令和元年11月26日(火)
場所	東京都千代田区永田町 2-2-1 衆議院第2議員会館 ほか
活動の相手方	赤沢亮生議員 石破茂議員 舞立昇治議員 青木一彦国交副大臣ほか
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山陰海岸ジオパークの推進に向け、国をあげた支援を要望するため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前中は、議員会館にて赤沢衆院議員と石破衆院議員。国会に移動し舞立参院議員にそれぞれ要望書を手渡した。</li> <li>・午後からは、中央合同庁舎に移動し、内閣官房、青木国交副大臣の他観光庁、文科省、環境省の担当者にそれぞれ要望活動を行った。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3府県120kmに及ぶ広域ジオパークの山陰海岸は、特徴的な見どころが複数ある一方、高速鉄道や高速道路などの交通面のハード整備が遅れ、インバウンド誘客を逃している状況にある。</li> <li>・また単県母体のジオパークと比較して、財政的な裏打ちが困難という事情もあり、全国的にインバウンドが右肩上がりだけに国支援が不可欠。</li> <li>・青木国交副大臣からは「こうして地元から直接ご要望を頂くと、当局の担当者としても心強く受け止めるもの。山陰近畿道の整備に拍車をかけていきたい」と力強い言葉を頂き、要望に出向いた甲斐があったと正直言って嬉しかった。</li> <li>・山陰海岸ジオパークの中でも「城崎温泉」は、関西圏から特急で1本との利便性や複数の外湯をうまく活用し、歩いて楽しめる温泉街づくりが大当たり。京都の嵐山を思わせるほどの人気を呼んでいる。</li> <li>・鳥取県内の温泉地も差別化、オンリーワン化を図り、城崎とは違った魅力を創り出し通過型観光から脱却する必要性を痛感している。こうした面でも関係省庁のご支援は不可欠で、国要望望の機会を逃さず継続したい。</li> <li>・また世界への発信。ネットワークの一員としてSDGsの達成に貢献する山陰海岸ジオパークならではの発信についても前進させたい。</li> </ul>
関連領収書番号	1104 1105

政務活動報告書

活動事項	長期有償インターンシップの成果発表に関する視察調査
活動年月日	令和元年12月4日(水)
場所	東京都八王子市片倉町 1404-1 東京工科大学八王子キャンパス
活動の相手方	東京工科大学 コーオプセンター長 戸井 朗人 氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京工科大学での全国初の「長期有償インターンシップ必修化」。 履修した初の卒業生の進路がどうなったのか？成果発表で確認し、本県で実施中の「長期有償インターンシップ制度」の今後に向けて提言や質問を行うため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2ヶ月間、複数の学生を有償で受け入れた地元八王子にある2企業の代表が登壇し、同事業の自社へのメリットを強調した。両企業とも、インターンシップ後も、受け入れた学生がアルバイトで継続勤務し、そのまま就職内定という運びになったという。</li> <li>・大学では、同事業の初年度卒業生の進路成果を見て、当初の「工学科」の学生のための必須科目化を、「全学科」に対象を広げる方針を示した。</li> <li>・第2部では、全学生がインターンシップで得た情報や教訓、自らの課題等を模造紙大のポスターにまとめ、来場者に向けてプレゼン発表を行った。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京工科大学が同事業を取り組んだ背景は、卒業生の大半が地元の八王子に残ってくれないという地元製造業の悲痛な叫びに呼応して、企業情報を熟知している地元信用金庫と大学コープセンターが核となり学生と企業との適切なマッチングをする仕組みを構築し、事業化した。</li> <li>・同事業を履修した初の卒業生の内定状況は、インターンシップ先に就職する学生が15%。大学が見込んだ20%には足らなかったが、初年度として大きな手応えを掴み、地元企業の反応も上々だった。</li> <li>・本県では、鳥大、環境大とも「必須科目」化しておらず、学生は夏休みか春休みにしか同事業に取り組めないのが現状。正式にカリキュラムに組み込むよう大学側と協議を進める要望を、一般質問で行いたい。</li> </ul>
関連領収書番号	1001 1209



政務活動報告書

活動事項	教育セミナー受講（2講座）
活動年月日	令和2年1月10日(金)
場所	大阪府大阪市東淀川区東中島 1-18-22 新大阪丸ビル別館
活動の相手方	講師:(一社)ペアレンツキャンプ 代表理事 水野 達朗 氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省の委員等を務め、家庭教育支援にも精通している水野達朗氏より本県教育課題の「学力向上」と「不登校対策」に関する情報入手のため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前講義は「フィンランドから学ぶ教育政策」。 なぜフィンランドの子どもたちの学力は高いのか？という疑問を発端にフィンランド教育の現状と日本の教育との違いなどの所見を伺った。</li> <li>・午後講義は「教育改革は家庭教育支援から」。 家庭教育がご専門で、不登校に悩む親子のカウンセリング支援に当たっている水野氏のご経験を踏まえた所見を伺った。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本でも「キャリア教育」が導入されているが、依然として普通科高校志望が圧倒的に多い。将来の職業選択が定まらず、大学に行くことが目的化している。その点、フィンランドは大学に行く大半は公務員志望。残りは「マイスター養成」として、専門学校が受け皿となっていて、社会でも大学と専門学校は両軸という受け止めになっている。</li> <li>・将来、自分はどうなりたいのか？義務教育の段階でキャリアの明確化を支援する教育と高校以降の確固たる受け皿作りの両方が必要であろう。本県の専門高校の魅力化と合わせて、県教委と議論していきたい。</li> <li>・水野氏は、不登校を認める方向に舵を切った文科省には反対のスタンス。待っているだけでは解決できないケースも多く、不登校のタイプを分けることからスタートし、積極的に関わった方が良いケース、待った方が良いケースなど、子どもの実情に即して関わるべきで、家庭教育が鍵を握っているとの所見は、不登校と向き合う重要なヒントがあると受け止めた。</li> <li>・家庭教育の在り方を含め、今後、県教委と議論する中で、必要とあれば一般質問で取り上げていきたい。</li> </ul>
関連領収書番号	1201 0101

政務活動報告書

活動事項	建築物及びSDGsによる地域づくりセミナー受講(2講座)
活動年月日	令和2年2月6日(木)
場所	東京都千代田区永田町 2-17-17 アイオス永田町
活動の相手方	講師:東京大学教授 建築家 隈研吾氏 早稲田大学環境総合研究センター研究員 准教授 永井祐二氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物がいかに地域づくりに波及効果を与えるのか?世界的建築家である隈氏の所見とSDGsに対する行政の向き合い方について永井准教授の見解を聞き、本県施策への提言や要望に生かすため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前は隈教授によるセミナー「地域を育てる建築物」。</li> <li>・ご自身が設計や監修に関わられた新潟県長岡市役所をはじめとした公共建築物や福岡太宰府のスタバ、海外で手がけられた建築物により地域や人の流れがどのように変貌したのか?事例を元に発表された。</li> <li>・午後は永井准教授によるセミナー「SDGsで地域が変わる自治体編」。国のSDGs未来都市や自治体モデル事業を採択した事例を中心に個別の取り組みを整理して発表された。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隈氏が設計監修した建築物は、新東京国立競技場を見ても分かるように木材がふんだんに活用されている。隈氏のコンセプトは、「極力、材料は現地で調達できるもの」。その方が、輸送コストや環境負荷を軽減できる上、木材であれば「地元の山を動かす」ことにもつながる。大型建造物でも「CLT等の技術革新で木材活用が格段に広がった」と隈氏。また木材特有のメリットとして人への温もりを挙げ、スタバ来場者が格段に増加した例を挙げて、効果を実証された。コスト面は木材利用でUPするが、木材を見直し、人の流れを変える効果を勘案すれば、VFMは問題ないとの見解は、本県の「木づかいの国」を後押しするものであり、今後の県政への提言にぜひ繋げていきたいと思った。</li> <li>・SDGsに関しては、永井准教授がモデル自治体の取り組みを整理して紹介して頂いたが、従来からの施策をSDGsの観点から置き換えて如何に国もモデルを獲得するのか?という手法が中心だったため、正直言って「思惑外れ」の内容だった。世界共通の目標を自治体と住民が共有し、「行動や選択が世界を変える」意味を持つことは再認識できた。</li> </ul>
関連領収書番号	0105 0203

政務活動報告書

活動事項	校舎断熱ワークショップの視察調査
活動年月日	令和2年3月2日(月)
場所	岡山県津山市山北520 津山市役所 (実践地:津山市立西小学校)
活動の相手方	津山市 財産活用課 FM推進係 川口 義洋 氏
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内小中学校でもエアコン整備が進む中、断熱材がほとんど入っていない校舎は、エネルギーの垂れ流し状態で非効率。この課題にワークショップで全国で初めて取り組んだ津山方式を視察し、本県での波及に生かすため。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎断熱ワークショップを企画実践した川口氏より、経緯を聴き取った。着想から夏休み中の実践まで、わずかひと月あまりという超過密日程で実施。保護者の協力を得る時間がなく、フェイスブックで「校舎断熱実証実験にご参加を」と呼びかけた結果、東京からの参加者も含め25名。</li> <li>・事前に地元工務店に依頼していた内窓パーツの組み立てと取り付け。窓側カベと天井に断熱材を敷設するという3工程を、1教室で実践。</li> <li>・9月以降、断熱済教室と隣教室との室温差をデータ化して検証。冷房使用時で50% 暖房使用時で30% エアコン稼働を抑制できる効果があることが判明したとの説明を伺った。</li> </ul> <p>【結果(成果)等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひと教室のワークショップで40万円の経費だったようですが、省エネ効果や子どもたちにとってより望ましい教育環境をDIYで実現できることを実証できたことは大きな成果であると受け取った。</li> <li>・鳥取県内の学校で津山方式を導入する場合は、保護者や地域の方、中学生以上であれば、DIYに十分取り組める年代でもあり、関わる人を広げれば、環境教育にも大きく寄与するものと考えられる。</li> <li>・かつて校庭の芝生化に関わったが、今回の校舎断熱も、行政と保護者や地域との協働で取り組めるケースであり、本県としても県教育委員会を中心に、新たな施策として「校舎断熱」を調査し、市町村教委に広めて頂けるよう、一般質問で取り上げたい。</li> </ul>
関連領収書番号	0304

【2019年度 政務活動報告書(県内)】

月日	活動先			政務活動の内容	関連領収書 番号
	住所	活動先の名称	対応者		
4月19日	鳥取市掛出町	市民会館会議室	谷畑 妙子代表	犬猫譲渡支援アニマルリンク総会出席	0408
4月10日	鳥取市今町	ニューオータニ鳥取	野口 悠紀雄氏	日本海政経懇話会	0401
5月17日	鳥取市今町	ニューオータニ鳥取	平井 伸治知事	全国みどりの愛護レセプション出席	0510
5月18日	鳥取市湖山町西	湖山西地区公民館	ニールスミス氏	NPOグリーンスポーツ鳥取総会出席	0515
5月20日	鳥取市末広温泉町	アフターアワーズ	菊池 ひみこ氏	デトロイトJAZZ交流説明会出席	0516
7月14日	鳥取市東郷地区	東郷地内 田んぼ	橋崎 和弘代表	NPOとうごう未来応援隊の活動に参加	0704
7月 8日	鳥取市戎町	まちなか拠点	伊藤 菜々美氏	まちなか拠点教育会に参加	0712
7月15日	鳥取市東品治	鳥取駅 バスターミナル2F	宇佐美 幸太氏	FMとっとり番組収録(7月3・4週分)	0705
7月26日	鳥取市福部町湯山	鳥取砂丘会館	藤縄 喜和会長	山陰海岸ジオ3府県議の会 総会	0717
7月26日	鳥取市東品治	鳥取駅 バスターミナル2F	西垣 豪氏	FMとっとり番組収録(8月1・2週分)	0706
8月 6日	鳥取市東品治	鳥取駅 バスターミナル2F	山根 卓也氏	FMとっとり番組収録(8月3・4・5週分)	0805
8月27日	鳥取市今町	ニューオータニ鳥取	谷田 昭吾氏	日本海政経懇話会	0401
8月29日	鳥取市東品治	鳥取ワシントンホテル	島田 政徳会長	鳥取ユネスコ協会 事前打ち合わせ会	0814
8月29日	鳥取市東品治	鳥取駅 バスターミナル2F	久野 光博氏	FMとっとり番組収録(9月1・2週分)	0815
9月 6日	三朝町三朝	プランナール三朝	内田 博長会長	鳥取岡山県境議連総会・意見交換会	0912
9月14日	鳥取市東品治	鳥取駅前 風紋広場	笠間 浩幸教授	「砂のルネッサンス」砂場あそび視察	0907
9月30日	鳥取市東品治	鳥取駅 バスターミナル2F	山本 理香氏	FMとっとり番組収録(10月1・2週分)	0909
10月14日	鳥取市東品治	鳥取駅 バスターミナル2F	田淵 裕章氏	FMとっとり番組収録(10月3・4週分)	1009
10月24日	鳥取市末広温泉町	白兔会館	水谷 修 氏	地域生活支援センター研修会参加	1011
10月 4日	鳥取市富安	しいたけ会館	内田 博長 会長	森林組合連合会との意見交換会	0321
10月 7日	鳥取市永楽温泉町	ホテルモナーク鳥取	藪中 三十二氏	日本海政経懇話会 出席	0401
11月 4日	米子市末広町	米子 コハクセンター	菅 義偉 氏	拉致問題 国民の集い 参加	1103
11月15日	米子市米原	エポック翼	高木 徹 氏	リユース食器 視察調査	1106
11月18日	鳥取市永楽温泉町	ホテルモナーク鳥取	中村 朱美氏	日本海政経懇話会 出席	0401
12月17日	鳥取市幸町	鳥取市役所別館	東谷 裕昭氏	FMとっとり番組収録(1月2本分)	1216
12月20日	鳥取市湖山町南	鳥取大学共通教育棟	アウイン エルマ氏	子どもの人権を考える会 出席	1217
1月 8日	鳥取市戎町	まちなか拠点	福山 豊 氏	データ活用講座 受講	0108
1月 9日	倉吉市駄経寺町	倉吉未来中心	田中 規靖 館長	県立美術館公開プレゼン視察調査	0102
1月28日	倉吉市駄経寺町	倉吉未来中心	河毛 寛 会長	鳥取県商工会連合会経営支援発表会	0107
2月22日	鳥取市末広温泉町	白兔会館	中永 廣樹会長	県体育協会表彰 出席	0209
3月18日	鳥取市末広温泉町	日ノ丸温泉	松本 正嗣 氏	経営支援の協議	0308
3月19日	若桜町若桜	若桜鉄道 若桜駅周辺	駅長・町職員	若桜駅リニューアル視察調査	0303
3月20日	鳥取市末広温泉町	アフターアワーズ	菊池 ひみこ氏	第10回鳥取JAZZ協議に参加	0309